



弁天マルシェの様子

取組

弁天マルシェ



イベント

高齢者・  
買い物弱者

### ❖取組を開始したきっかけ

弁天通商店街は名古屋市西区に位置し、地下鉄浄心駅から東に広がる商店街である。全長400m、幅30mと商店街として道幅が広く、平成12年に電線類地中化工事が実施された歩道の脇には、七福神の石像が点在し、訪れた来街者を出迎えてくれる。

3年ほど前まで、当商店街の近くには元気のいい八百屋があった。遅くまで営業しており、野菜に限らず肉、魚、その他の食品や雑貨まで扱うスーパー並みの品揃えが人気であったが、店主の高齢化に伴い閉店となり、その影響で来街者も減ってしまった。駅前のビルにスーパーが入ってはいるが、地下に店舗があり、エスカレーターやエレベーターは無い。高齢者にとっては、日々の買い物で荷物を抱えて階段を昇り降りすることは大きな負担となっている。

また近年、近隣地域に大型小売店舗や複合商業施設ができていくが、やはり車や自転車に乗ることのできる人でなければ利用しにくい。

こうした高齢者の窮状を聞きつけ、「自分たちがなんとかしなければ」と立ち上がったのが、当商店街



の店主たちであった。

買い物弱者と呼ばれる人々を救い、そして商店街に昔のような賑わいを取り戻したいという想いから、弁天マルシェはスタートした。

◀七福神の石像が  
来街者を出迎える

### 取組の概要 >>>>

平成24年7月に誕生した弁天マルシェは、30年以上続く特売セール「弁天市」の開催日である毎月「3日」と、新たに「第3土曜日」を追加した月2回、「宝塔寺」の境内や店舗の駐車場を会場にして開催される朝市である。

会場では野菜や果物、塩干、豆腐などの食料品を販売し、同時に商店街の各商店でも特売を行う。現在は犬山の人気農家である「市橋農園」や、トラックで野菜の出張販売を行う「ボンマルシェdeファーム」が参加しているほか、三重県の「東紀州地域振興公社(旧:東紀州観光まちづくり公社)」が東紀州の特産品を扱う産直市を実施している。これは、平成23年9月の豪雨で被害を受けた三重県南部地域の復興支援の観点から始まった取組である。

また、山形県の農家と親交のある店主がおり、新米やラ・フランス(洋なしの一種)など季節ごとの農産品も産地直送で提供している。更に、社会貢献活動の一環として、商店街に近い鳥見作業所で働く知的障害者の方が作ったパンや焼き菓子も販売している。



▲宝塔寺の境内などが会場に  
▶「ボンマルシェdeファーム」  
の出張販売



こだわり  
ポイント!

弁天マルシェの利用者は、生鮮品などを求めてやってくる高齢者が7~8割を占めるが、珍しい野菜を取り扱っていることから若い世代のファンも多い。料理店を営む人が仕入れのために訪れるケースもある程だ。生産者が直接対面販売を行うことで安心して買い物ができる上、売り手との会話を楽しめることもスーパーと異なる魅力のひとつである。



### ❖取組の効果

開始以前と比較して、平常時の商店街にも足を運ぶ人が増えており、各商店の売上も増加した。

また、弁天マルシェの主な目的は買い物弱者の支援であるが、訪れた人々の交流の場としても機能している。近年では、一人住まいの高齢者が誰とも会話をせず毎日過ごすというも珍しいことではない。そのような高齢者にとって、弁天マルシェへ買い物に出掛け、人と出会い会話をすることは、日々の生活を彩るエッセンスとなっている。



### ❖今後の課題

平成24年にスタートして以降、徐々に会場や参加店を増やしてきた弁天マルシェだが、今後も食料品に限らず、商店街で取り扱っていない商品やサービスを取り入れて一層充実したものにしていきたいと考えている。そして、弁天マルシェの次のステージとして、更なる買い物弱者支援のために宅配サービスを行うことも検討しており、定期的に勉強会等を行っている。

また、弁天通は「一度に七福神をお参りできる場所」としてテレビや雑誌に取り上げられており、若い女性を中心として、カメラを片手に観光に訪れる人もよく見られるようになった。しかしながら、観光客が商店街で買い物や飲食をしていくことは少なく、商店街の売上げという面では今のところ恩恵があるとはいえない。地元の住民はもちろん、観光客にも足を運んでもらえるような魅力ある店舗を充実させていくことも、今後の重要な課題の一つである。

#### 商店街DATA 弁天通商店街振興組合

所在地 ● 名古屋市西區城西4丁目/上名古屋2丁目  
代表者 ● 沢井 文男 TEL ● (052)531-4204

アクセス ● 地下鉄浄心駅 浄心交差点より東へ400mの間 組合員数 ● 43名